



2023年11月1日

サーキュラーハウス・サーキュラーラボ設立PJ@蒲郡

「空き家」×「サーキュラー」×「まちづくり」
まちあるき&ワークショップ
レポート



©UNISON CORPORATION ALL RIGHTS RESERVED.

Think Global Garden
UNISON

「空き家」 × 「サーキュラー」 × 「まちづくり」 まちあるき

■ 2023年10月21日（土）13時～17時

■ 参加人数 14名

■ 参加者の属性 建築家、空間デザイナー、大学教授、学生、会社員、
メーカー開発担当、広報担当、IT技術者、フリーランス

■ 行程 名鉄蒲郡駅⇒名鉄形原駅…徒歩（約4km）…名鉄西浦駅⇒名鉄蒲郡駅
（詳細およびミッションはマップ参照）

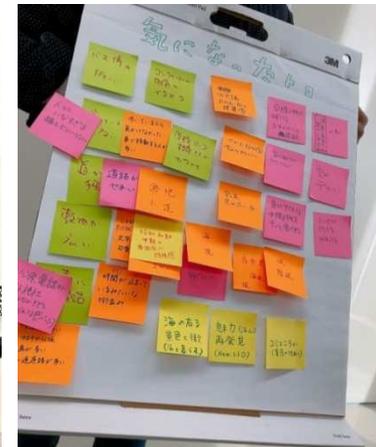


当日は風が強かったものの青空のもと、元気にまち歩きをスタート。様々な属性の参加者がそれぞれの視点で蒲郡の街を見つめながら歩きました。

名鉄蒲郡線のレトロにカラーリングされた車両で一路、形原駅まで移動。駅前から形原港方面に向かい、丘の上のお寺「利生院」の前の階段で記念撮影。



(上左) 住宅の中まで植物が侵入している空き家。放置された時間の長さを感じる物件。(上中) 西浦港から徒歩1分の空き家。敷地の中に3棟の建物があり、緑で覆われジャングル状態。参加者は驚きつつも物件の可能性にドキドキを隠せない様子。
(下左) ツアーの途中に立ち寄った無量寺というお寺の境内でのひとコマ。地元ではガン封じの寺として有名だが、ツアーに参加した蒲郡市民も「今まで来たことが無かった。こんなお寺があるんだ！」と改めて感嘆。絵馬も味わい深い。お堂の前に今では珍しい緑の公衆電話が鎮座。この電話いったいどこに繋がるのか!? 気になってしまう...。(下右) 西浦港近くのおさかな市場「西浦マーケット」の前で参加者と言葉を交わす蒲郡市役所の伊藤さんと杉浦さん。休日にも関わらず様子を見に来てくださったお二人に感謝！早朝5時～7時、15時～17時30分におさかな市場が開かれる。その向かい側には漁協信用部をリノベーションして生まれたおしゃれなカフェ「チャリ・カフェポーター」が！地魚フライの定食やクラムチャウダーやスイーツがいただける。当日は時間がなくてコーヒーを飲む時間もなく、参加者からは残念がる声が漏れていた。



(上左) 午後の光が水面を照らす西浦港の様子。当日は風が強く船は出ていなかったが、漁業が盛んな港。(上中) 西浦港から徒歩1分の空き家の軒下におかれたガラスのビンと漬物の甕。この家から人の気配が消えてから久しいということを感じさせる。

(上右3枚) 西浦港のちかくの民家の裏に自家製のアジの開きが干されていた。新鮮な魚が海風に吹かれて美味しい干物になっていく様子が見られるのも、この街の豊かさ。決して都会では見ることができない風景。その干物を虎視眈々と狙う三毛猫の存在もこの街の風景を一段と味わい深いものになっている。

(下左) 名鉄西浦駅。名鉄蒲郡線は蒲郡から西尾市に向かって海岸沿いの街をゆっくりと走る単線の路線。西浦駅ではホームを挟んで列車がのんびりと行きかう。沿線には小さな港町があり、緩やかな時間が流れる場所。まだまだ魅力的なスポットがこの沿線にはありそうだ。

(下中右) まち歩きツアー終了後のワークショップの様子。参加者がおもしろいおもしろい自らの視点で捉えた形原から西浦の印象を付箋に書き出す。様々な属性のメンバーが参加していることで、集まった意見も多様性に富んでいた。全員が同じように感じた街の特徴はあるが、それぞれの琴線に触れたユニークなポイントも飛び出し、ワークショップは和やかに進んでいった。街の印象に加えて、自分だったら空き家をこのように使いたいという意見も数多く出された。

まち歩き後のワークショップでの参加者の意見（気になったココ！）

気になったココ

古い建物 古い建物の 工芸的	時間が止まった 街並み	古い建物 保存 空間が広い	レトロな建物の アイコン的	のこり屋根 アイコン的	古い建物、 古い建群、 若い人が見れば 懐かしい
ノスタルジー	古い建物 古い建物	昭和初期 中期 雰囲気	建物の味に こだわって 雰囲気、建物の 造り	不思議、 形状、形の 建築	板葺き壁
古い建物 が多い	建物が 低くて 見晴らしが いい	窓が 多い、多	家の作りが かわる	空っぽの 家が多い	

古い建物やレトロな外観に対する印象

ノコギリ屋根、板葺きの壁、ノスタルジー
錆びた部分がかっこいい、細部にこだわったつくり
窓が多い、建物が低くて見晴らしがイイ
不思議な面白いカタチの建築が多い、、、

海 見える	海が 見える!	や、海 和、海	海風、セ 海風	海が かわる	風が 気持ちいい
海 の見える 景色と街 (海と街)	海が近い	海山? 風景	海風 鉄骨	海を感じる 建物、海風 静か、空気 の透明度	空が 広い
直線 な道 が多い	1-2 SSS の道	ソテツ の道 が多い	電車の 道 が多い	フランチャイズ の道 が多い	魅力 再発見 (New, Old)
道路が 狭い	細い道 が多い	道が 狭い	路地 が多い	高層ビル が多い	狭い道 が多い

自然やロケーションに対する印象

海が見える、海が近い、坂が多い、風が気持ちいい
空がでかい、階段が印象的、電車がレトロ
樹木が立派に育っている、ソテツが南国っぽい
トンビが多い、道が狭い、路地が多い、
駐車場が無い家が多い、近所との距離が近い
ビレッジ感がある、フランチャイズ店が少ない
久々に電車の切符を買った（ICが使えない）

コミュニティ (生活のあり)	コミュニティ が多い	人が 多い	車が 多い
-------------------	---------------	----------	----------

コミュニティや人に対する印象

コミュニティがしっかりありそう、人が歩いてない
車が歩行者を優先してくれる、猫が人と同数!?

コンビニ が多い	コンビニ が多い	商店の 雰囲気	公共電話 が多い
バス停 が多い	学校 が多い	お寺 が多い	公共電話 が多い

他所にない面白ポイント

お堂の前の公衆電話、自家製干物、校章がカワイイ

まとめ

地元住民も日頃から街を歩いて散策する機会が無くなっている。かつてはどこにでも存在したものの、そのエリアでは普通と見なされていた土地の持つ特徴や建築物、そして人。それらは外部からの来訪者や属性の異なる人の視点で見ると、とても興味深いものとして認識される。

“空き家”とひとくちに言っても、その状況や使われ方は様々だ。そもそもオーナーがその物件を空き家として捉えていないケースが多い。倉庫として使っていたり（というより捨てられないモノたちが詰まっている）、自分の持ち家を他人に貸すこと自体に抵抗感を持っていたり、不動産を売却することに対して周囲からネガティブな視線を向けられることに不安を感じ現状維持が続く、そして建物は着実に劣化していく。

“空き家”つまり中古物件には、新築にはない魅力が詰まっている。それは建築的な要素だけでなく、地域の住民の脳裏に残っていた場所や建物に対する記憶という財産。それらをすべて解体してゼロに戻すのではなく、場所と建物、そして周囲の魅力を冷静に見極め再編集することで、新築よりも魅力的な場所に生まれ変わらせることができる。今回のまちあるきでは、Z世代の学生も加わったことで複層的な視点で蒲郡の形原・西浦地区を見つめ、その地域がもつ魅力的な要素を集めることができた。

この先は対象となる空き家物件を特定し、建物の詳細調査を進めていく。